

乳牛奴隷 緊縛調教



「ああ……き、今日は……何をされるのですか……っ？」



「ふふ……今日はね、
ミルクドールちゃんが

見られるだけで、
想像だけでイける
ようになるための
訓練をするよ。

ここに居る観客からめいっぱい視姦してもらった」

そんな……主人様はそう言ってるけど……
こんなにたくさんさんの……魔物が……
私を見て……アソコを
あんなに大きくして……

最後には……きつと
皆に輪姦されて
しまっんでしょう……？

ひっ……獲物を狙うような
視線が……全身に絡みついて……
それに……身じろぎするだけで縄が……食い込んで……
やあ……あ……見られてるだけなのに……
秘所から……お汁があ……う
おかしく……なっちゃいそう……う



「うん？どうしたのかな？腰がひくひく動いて…
本気汁で水たまりができてきちゃってるよあ？」

「はあ…あ…

もう…見ないで…

ください…う…

違う…違うの…私…

わたし…こんな…う…

ひあん…」

「見られて興奮して、犯されるところを想像して
自分で縄でこすって甘イキしちゃってるくせに。いやらしいなあ」



はあっあああ……うっ。はりも……。パフパフに張って……
触られてもいらないのに……。ミルク……
溢れちゃってる……

も……もうだめ……。う
熱気と……魔物の淫靡な
匂い……。それに体の中まで
挿入してくるような
視線が……。私を……。全部……
犯して……。はっああああんっ

「自分で腰を揺らして、視姦されて潮まで吹けたんだ。上出来だね。
じゃあぞ褒美。皆に存分に抱きつづけてもらおうね。さあ皆、ふち込んであげて」









